（様式第１号）（第２条 16 号関係）

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

１　評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡１丁目 35 番５号
評価実施期間： 平成 30 年 7 月 30 日から平成 30 年 12 月 5 日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） Ｂ１６０２１、Ｂ１８０１４、０５０４８２	

２　福祉サービス事業者情報（平成３０年１０月現在）

事業所名： （施設名）　長野市豊野ひがし保育園	種別： 保育所
代表者氏名：　市長　加藤　久雄 （管理者氏名）　保育・幼稚園課長　中澤　和彦	定員（利用人数）：　125 名（98 名）
設置主体：　長野市 経営主体：　長野市	開設（指定）年月日： 平成 9 年 3 月 26 日
所在地：〒 389-1102 長野県長野市豊野町大倉２１９６	
電話番号： 026-257-2484	FAX 番号： 026-257-2484
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	

職員数	常勤職員：　21 名	非常勤職員:　4 名
専門職員	（専門職の名称）　名	
	・園長　1 名	・給食調理員　3 名
	・保育主任　1 名	・看護師　1 名
	・保育士　18 名	・子育て支援員　1 名
施設・設備の概要	（設備等）	（屋外遊具）
	・未満児室…　2 室 ・ほふく室…　1 室 ・保育室　…　6 室 ・遊戯室　…　1 室 ・調理室　…　1 室 ・事務室　…　1 室 ・便所　…　5 室	・鉄棒 ・滑り台 ・雲梯 ・のぼり棒

３　理念・基本方針

長野市が目指す子どもの姿

（長野市乳幼児期の教育・保育の指針より）

かがやく笑顔で　げんきに遊ぶ　しなのキッズ

安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して友だち等の人間関係を築いていく生き生きとした子どもを育てます。

【教育・保育の基本方針】

○健康な心と体を育てる
自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う

○感じて、考えて、チャレンジする力を育てる
好奇心や探求心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる

○自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進
満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を得たり認められる嬉しさを感じることで更なる意欲へとつながる教育・保育を進める。

○人との関わりを大事にする教育・保育の実践
自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考え受け止めたりして、人との関わりをもつことに喜びを感じる教育・保育の実践

○家庭や地域との連携
子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育ち・子育て支援を行います

○保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った全体的な計画を作成し日々の教育・保育を実施します。

○豊野ひがし保育園　保育目標
「考えよう！ やってみよう！ 元気にあいさつ　ひがしっこ」

４　福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当豊野ひがし保育園は長野市が直接運営する28園(内休園1園)のうちの一つで、平成17年1月に旧豊野町が長野市に合併されて以降、長野市が運営している。
当保育園の前身は、昭和34年10月に現在の長野市豊野東小学校の隣に週3回2クラスとして開設された豊野町立東部保育園と昭和41年に豊野町浅野地籍に開所した豊野町立ちくま保育園の二つで、その後平成9年4月に二つの園が統合し、当時の豊野町の町立ひがし保育園として現在地に竣工した。平成17年1月、長野市との合併により「豊野ひがし保育園」と改称され、平成27年4月に同じ豊野地区の豊野みなみ保育園が民間法人に運営委託されたことに伴い地域子育て支援センターが当保育園の一角に移設され、園長がセンター長を兼務している。
当保育園は市内の北部にあり、周りには自然が豊かで、子どもたちの散歩や遊びのエリアも広い。当園は東西に通じる国道18号線と南北を貫く北信五岳道路豊野ラインの交差点近くにあり、果樹園や稲作が盛んで、志賀高原などの北信濃の山々を望むことができ、平成29年10月には「信州の豊かな自然環境と地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育」の「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて現在2年目に入っている。当保育園のお散歩マップ(自然保育マップ)にはリンゴ園や田んぼなどのあぜ道、土手、公園や神社、小学校や駅、つつじの名所などがマークされイラストや写真なども貼られており、四季折々の自然や動植物に親しみ、また、地域の人々と挨拶を交わし様々な自然体験や社会体験、生活体験をしている。
こうした中、子ども達の居住区である豊野町大倉地区は車の利便性が良いことから、近年は新興住宅地が広がり核家族世帯が増加傾向にあり、若い子育て世代の人口も増えつつある。また、一帯はりんご畑やブドウ畑が広がり、兼業農家も多いことから三世代同居という家庭も見られ二極化しているという。当保育園の近くには園の多くの子どもたちが就学する豊野東小学校があり、「長野乳

幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の「小学校との連携の充実」に沿い、年長の子どもたちはその小学校の1年生や5年生と交流し、小学校の音楽会、運動会、マラソン大会の応援などで様々な体験をしている。

現在、当園には0歳児7名・1歳児2名のつぼみ組、1歳児14名のはな組、2歳児12名のたんぽぽ組、3歳児12名・4歳児8名のそら1組、3歳児12名・4歳児9名のそら2組、5歳児22名のたいよう組の六つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された平成30年度の「全体的な計画(保育課程)」の下、職員全員で考えた新しい「目標」、「考えよう！ やってみよう！ 元気にあいさつ　ひがしっこ」に沿い、特に、「あいさつ」は何事にも優先することとして、小学校からその先の「生きる力」の基礎を培う保育として位置付け全職員が意識を一つにして熱心に取り組んでいる。

また、当園では保護者の仕事と子育ての両立等を応援するため、そのニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、長時間保育や一時預かり、障害児保育等を実施している。長時間保育は時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用されている保護者がいる。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じて支援している。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。更に、当保育園には子育て支援センターが併設されており、未就園児と保護者対象に子育て相談を行い、園庭も開放し、当保育園の子どもたちとも交流しながら遊ぶことができ、いつでも受け入れが可能となっている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で　元気に遊ぶ　しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画　～わくわく子育て　すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2018年度から2020年度までの中期計画として、福祉サービス第三者評価の受審や、2年目に入っている「信州やまほいく」の更なる充実を図ることを掲げ、前向きに取り組んでいる。職員も「保育内容の充実」として当園の事業計画の重点課題として上げ、自然を生かした保育を行うことや地域資源と人材を生かした保育を行うこと、小学校との連携の推進などに真摯に取り組んでおり、一人ひとりがより高みを目指し様々な研修に参加することで指導力の向上を図り、その職責を果たすための専門性と質の向上についても日々研鑽に努めている。

５　第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて

６　評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1）豊かな心を育てる自然環境を生かした保育

当保育園では「信州型自然保育(信州やまほいく)」の認定を受けており、当園の2018年度から2020年度までの中期計画の中でも「2年目以降の信州型自然保育(信州やまほいく)の更なる充実」として掲げ積極的に取り組んでいる。また、今年度の事業計画の中の重点課題として「自然を生かした保育を行う」とし、更に、職員育成と研修計画にも「信州型自然保育専門研修事業に参加する」として実践している。

当保育園の周辺のなだらかな山間部にはりんご、ぶどうなどの果樹園があり、平地には田畑が広がり、自然豊かな環境の中でのんびりと保育が行われている。園のお散歩マップ(自然保育マップ)にある近くの田んぼ道や神社等へ散歩に出かけ、あぜ道、土手でバッタ、イナゴなどの虫探しをし、おたまじゃくしやタニシなども捕まえ園に持ち帰り飼育をしたり、花摘みやオオバコの茎での相撲大会など、自然を遊びに取り入れながら十分に楽しみ、多くの発見や体験をし、友達同士の触れ合い、助け合いの心を育て、地域の人々とも挨拶を交わしている。

天気の良い日には広い園庭に出て、砂遊びや泥だんごづくり、マラソンなどをし、合わせて固

定遊具などを使ったり、旧豊野町時代からの伝統でもある竹馬に乗り十分に体を動かしたりしている。また、園庭の一角の畑や当園の子ども達の殆どが就学する小学校近くの畑、プランターなどで野菜を育てており、ピーマンやオクラ、ジャガイモ、サツマイモなどを育て、その成長を見ながら収穫時にはその数調べなどをして表に書き込み、また、サツマイモの茎を家庭に持ち帰りきんぴらにするなど食の大切さも教え、更に、昼食の食材として利用し、そのことを昼食時の放送で流すなど、子どもたち全員に知らせることで収穫の喜びと食への関心を高めている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針の「取組の方向性Ⅰ－1　自然環境を活かした体験活動の充実」でも「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」、「信州型自然保育認定園を増やす」の三つを掲げており、当保育園でも生命や自然についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培っている。

2)人との関わりと地域交流活動

当保育園では子どもが人と関わる力を育てていくため、子ども自ら周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境を整えようと、今年度の園の目標として、「考えよう！ やってみよう！元気にあいさつ　ひがしっこ」と掲げ、特に、「あいさつ」は心を開いて近づき、自分が相手を認めているということを表すための何事にも優先することとして職員がお手本となり実施しており、訪問調査に伺った際にも、「おはようございます!」、「こんにちは!」というこどもたちの明るい挨拶が聞かれた。

当保育園の事業計画や全体的な計画の中には豊野町住民自治協議会やかがやき広場などと積極的な連携を図り子どもたちが地域の社会で様々な社会体験ができるようにと掲げ実践している。当園と地域との連携は強く、作物の栽培、収穫、行事等、多くの地域の人々から沢山の援助を受けている。三世代同居の世帯もまだまだ多く、祖父母の協力も得やすいことから子どもたちは地域の伝統、知恵を教えていただきながら、地域の高齢者を始めとした大人たちとのふれあいの中で温かさを感じ、そのふれあいの中で多くを学び、世代間の交流として毎年度継続し、市の保育・幼稚園課にも実績を報告している。

また、旧豊野町時代から継続している町民運動会にも参加し子ども達が踊り、地域の人々と交流している。災害時には多くの子どもたちが近い将来通う豊野東小学校や交番、消防団などとの連携がとれるようになっており、子どもたちの兄弟・姉妹が通っていることもあり当小学校と合同で非常時に備えた「引き渡し訓練」も行っている。地元の民生児童委員や主任児童委員などに入園式や運動会、卒園式などの行事に参加していただき園の実情を知ってもらうと共に地域の子育てニーズも把握し連携し対応している。

更に、「長野市子ども・子育て支援事業計画」に「乳幼児と触れ合う機会の提供」として地域の学校教育等への協力についての姿勢が明文化されていることもあり、中学生の職場体験や高校生・短大生のボランティア、実習生などの受け入れも行っており、地域のボランティアによる人形劇、読み聞かせ、パネルシアターなども行われている。

3)子育て支援センターとの連携による子育て支援

当保育園の一角には子育て支援センターが併設されており、当センターの利用を通して保護者が喜びを持って子育てができるようにと子育て親子の交流の場が提供されている。専任保育士と当保育園との兼任の看護師が配属され、子育ての相談、援助、情報提供を行っており、園長が併設の子育て支援センターのセンター長を兼務していることから、園舎内外で遊んだり、幼児と交流できるようにしている。

また、子育て相談に応じたり、センター主催の講演会や講習を行ったり、父と子のふれあい事業の開催にも当園として協力している。更に、主任が地域の保健センターに出向き、4ヶ月健診で情報等の提供を行ったり、各地域の公民館で開かれる子育てサロンの出前講座などで子育て相談に乗ったりしている。

子育て支援センターでは「利用のご案内」や「保育園・認定子ども園のしおり」等のパンフレットを置き、図書の貸し出しをしたり、給食体験等も行い、地域のボランティアや保護者がそれぞれの特技を生かして主体的に活動できるような支援もしたりしており、保健センター、地域発達支援会議等での情報から福祉ニーズの把握もしている。

4）保育現場で医療に携わる看護師の常駐

以前は保育園に看護師が常駐するのは珍しかったが、最近では時代の流れに合わせて保育園で活躍する看護師が増えてきており、当保育園でも看護師を配置し、長野市東北部の他の公立保育園２園のサポートもしており、当園併設の子育て支援センターでの健康相談にも応じている。

まだ保育園看護師の存在を知らない人も多く、完全に浸透はしていないというのが現状ではないかと思われるが、2013 年までに私立保育園での看護師の常駐が義務づけられたことや、未満児が増えたことで保育園での看護師の配置が増えており長野市でも多くの看護師をブロック別の基幹園に配置し、大切な子どもを預ける保護者にとって看護師の存在が安心できる大きな要因となっており、専門知識をもった看護師により、病気や怪我をした時だけでなく、成長過程・病気の感染予防・アレルギーの相談などをすることができ保育士にとっても強い味方となっている。

長野市には公立保育園としての「保健マニュアル」があり、一人ひとりの「家庭の調べ」や「緊急連絡カード」、保護者との個別懇談会などで健康状態を把握している。「保健マニュアル」に基づき、家庭と連携を取りながら、保健計画を作成し、健康管理を行っている。歯科検診、内科健診は年２回、体重測定は毎月、身長測定は年３回、胸囲・頭囲測定は年２回行い、発育や発達に適した生活を送る指標とするよう保護者に結果を伝え、職員間でも確認している。

内科健診、歯科検診、視力検査それぞれの結果報告を職員間で回覧し、指導計画の保健、健康に関する部分（生命の保持、健康、食育等）に反映させている。また、健診の結果は集計を取り、市保育・幼稚園課へ報告し連携を図っている。健診結果は保護者にも文書で知らせており、虫歯があった場合には保護者に伝えるとともに、日々の歯磨き時に職員が介助を行っている

看護師が常勤しているので、体調の変化、小さなけがであっても園長に報告し診てもらうことができ、また、その様子は担任や場合によっては看護師から細かく保護者に報告している。感染症の発生、保健情報などは園だより、市からの保健だより、看護師が日々の注意点などをお知らせ用のボードに掲示することにより家庭に知らせており、子どもたちの健康をサポートしている。

◇特に改善する必要があると思う点

1)更なる防犯への備え

災害時に子どもの安全を確保するため、市、地域、保護者、職員等の関係者を挙げて取り組んでいる。園内には、子ども達にも分かりやすい場所に災害コーナーを設け、当保育園の立地や災害の影響がわかるハザードマップを掲示して意識づけをしている。

災害発生時の危機管理マニュアルや土砂災害に関する避難計画を基に毎月、想定を変え、不審者を想定した訓練も含め防災訓練を年 14 回実施しており、未満児も含む園全体で通報、避難誘導、消火訓練などを行っている。市役所支所や消防署、小学校などと合同で引き渡し訓練も行っている。園内には水や食料の備蓄が準備され、各クラス、事務所には避難持ち出し袋が準備されている。

災害時に備えての訓練が十分実施されており懸念されることは少ないが、当園の近くには大きな道路が通り、空き住宅もあることから外部からの侵入者に更に留意する必要性があるものと思われる。

当園は良い意味で開放的であるが、出入り口も沢山あることから、防犯対策（不審者対応を含めた）を更に充実されることを期待したい。

2)未満児の運動会等の行事への参加

保護者へのアンケートの「行事日程に、保護者が参加しやすいような配慮を感じますか」という問に対して、「0・1 歳児の未満児も運動会やプール参観などの行事に参加させてほしい」との期待の声が上がっており、おそらく酷暑対策も含めた色々な理由から園でも判断され現状に到っているものと思われる。また、未満児の特性からすると長時間の参加もかなり難しいことも考えられる。

年長児との運動会ではないが、遊戯室等での未満児に限ったミニ運動会などを進級前の時期に行う保育園もあるようであり、0・1 歳児のできることが増え、また、沢山の成長した姿を保護

者に見せることが本来の開催時期ではないこのような時期にできるのではないかと思われる。
可能であれば保護者のニーズについての検討の機会を設け、新たな発想で対応されることを期待したい。

７　事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添１）並びに内容評価項目の評価対象Ａ（別添２）

８　利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添３－１）

９　第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成３０年１２月１日記載）

今回は第三者評価を受審させていただき有難うございました。
第三者外部評価を受審することで職員の頭の中にはいつでも「評価」という言葉があり、正直私を含めプレッシャーを感じていました。長野市が第三者評価内部委員会を立ち上げてから毎年行っている自園の内部評価のレベルでは追いつかないことがわかり、園内研修をしっかり行い、そのおかげで職員の意識が変わり、自分達で各マニュアル等を見直す良い機会を与えていただいたと思います。
また、マニュアルばかりでなく、園内環境についても見直しをして改善に努めることも出来ました。
評価結果総評の中の「改善する必要がある点」ですが、総評の通り、保育園の立地上開放的でありどこからでも不審者が侵入できる危険があります。門の施錠をしっかりするとともに各保育室の出入り口の防犯対策をしっかり行いたいと思います。
次に未満児の行事への参加ですが無理のない範囲で参加を検討したいと思います。たのしみ会については 1 歳児からの参加なので保護者の方の理解は得られると思います。保護者の方にとって、子どもの成長する姿を見ることはとても嬉しいことだと思うので前向きに検討していきたいです。
良い評価をしていただいて職員の励みにもなり一層保育に前向きに取り組む姿勢が見られることが嬉しいことです。子ども達も職員も「保育園は楽しい」「職場は楽しい」と思えるように保育をしていきたいです。